

2025年2月18日

株式会社三菱UFJ銀行  
株式会社愛知国際アリーナ

## IGアリーナのファウンディングパートナー就任について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長<sup>かめざわ ひろのり</sup> 亀澤 宏規、以下 MUFJ）の連結子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員<sup>はんざわ じゅんいち</sup> 半沢 淳一、以下 当行）は、今般、株式会社愛知国際アリーナ（代表取締役社長<sup>きざとくじ</sup> 鷲 徳次）が運営する IG アリーナのファウンディングパートナーに就任いたしました。

IG アリーナは次世代コミュニケーションインフラである IOWN<sup>[1]</sup>をはじめ、最新の設備を備え、国内初となる BT コンセッション方式<sup>[2]</sup>にて設計、建設、運営される次世代型のアリーナです。

東海地域の新たなランドマークであり、人と人との交流の結節点、感動の拠点としての IG アリーナと、当行の幅広いネットワークや総合金融サービスの機能・知見との融合により、地域社会のさらなる発展と様々な社会への貢献に積極的に取り組んでまいります。

MUFJ は、パーパス（存在意義）である「世界が進むチカラになる。」の実現を目指す中、ファウンディングパートナーの活動を通じ、スポーツやエンターテインメントが持つ人々を集めるチカラ・つなげるチカラを金融サービスに乗せ、より良い社会の実現をリードしてまいります。

[1] IOWN(Innovative Optical and Wireless Network)構想は、あらゆる情報を基に個と全体との最適化を図り、多様性を受容できる豊かな社会を創るため、光を中心とした革新的技術を活用し、これまでのインフラの限界を超えた高速大容量通信ならびに膨大な計算リソースなどを提供可能とする（端末を含む）ネットワーク・情報処理基盤の構想です。

[2] Build-Transfer コンセッション方式の略。民間事業者が自ら資金調達を行って公共施設等を設計・建設（Build）した後、その所有権を公共に移転（Transfer）する事業方式（スタジアム・アリーナに係るコンセッション事業活用ガイドラインより引用）。

### [IGアリーナについて]

2025年7月に愛知県に誕生する日本最大級のハイブリッドエンターテインメントアリーナ。17,000人の最大収容を誇り、30mの天井高や、スポーツ観戦に適したオーバル型とコンサートに適した馬蹄型を融合したハイブリッドオーバル型アリーナ面の国内初採用、飲食店舗やホスピタリティエリアの充実など、海外での観戦・鑑賞スタイルを導入。大相撲名古屋場所開催の他、B1リーグ所属クラブ「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」のホームアリーナになることが決定している。IGアリー

ナの名称はネーミングライツパートナーのIGグループ（イギリス）と2024年2月に発表。外観と一部内観デザインは隈研吾建築都市設計事務所。

事業主体：愛知県

管理運営：株式会社愛知国際アリーナ

所在地：愛知県名古屋市北区名城1-4-1名城公園内

階数：5階建て

高さ：建物高さ41m、アリーナ内天井高30m

建築面積：26,500 m<sup>2</sup>

延床面積：63,000 m<sup>2</sup>

最大収容人数：17,000人（立ち見含む）、バスケットボール時15,000人（着席）

飲食店舗・ワゴン店舗区画：30区画

URL：<https://ig-arena.jp/>

以 上